

# 羅針盤



2019年2月28日(木) 第76号

「野心がなければ何も始められない。努力しなければ何も終われない。褒美とは贈られるものではなく、勝ち取るものだ。」ラルフ・W・エマーソン(アメリカの思想家(1803～1882))

## 勝利も幸運も17期に引き寄せよう (2/27学年レク)

昨日が、今年最後のLHR。「学年レク」として今年も『大綱引き大会』で大いに盛り上がりました。文系リーグと理系リーグで順位を決め、総合優勝をかけた順位決定戦。真剣な表情で闘う姿、熱い声援を送る姿、他クラスを応援する姿に感動しました。何事にも全力で取り組む姿勢はすばらしいと思います。優勝クラスと準優勝クラスには、後日“豪華賞品”が贈呈されます。

### 優勝：5組

### 準優勝：4組



力を見つけた5組



選手宣誓



団結力を見せた4組

**3位：7組**

**6位：1組**

**4位：3組**

**7位：2組**

**5位：6組**

**8位：8組**

3月	曜日	行事等	週末課題等の予定	朝学習	
1日	金	卒業式			
2日	土		国・数		
3日	日				
4日	月		国語課題提出	数学	
5日	火		数Ⅱ課題提出	英語	
6日	水	午前中45分授業(Ⅱ期入試準備)		国語	
7日	木	自宅学習(Ⅱ期入試)	国・数・英それぞれ、Ⅱ期入試期間中の課題が出されます。		
8日	金	自宅学習(Ⅱ期入試事務)			
9日	土				
10日	日				
11日	月	自宅学習(Ⅱ期入試事務)			
12日	火	*午前中45分授業(Ⅱ期入試事務)			
13日	水	*午前中45分授業(Ⅱ期入試事務)			
14日	木	自宅学習(合格発表)			
15日	金	40分授業日		英語課題提出	英語
16日	土				
17日	日				
18日	月		国・数課題提出	数学	

☆明日 3/1 は卒業式

服装は正装です。立派な態度と素晴らしい歌声で先輩たちを送り出しましょう。

☆Ⅱ期入試があります。生活リズムを崩さず、課題も含め学習時間を確保しましょう。その後、教室移動もあります。整理整頓に努め、計画的に不要な私物を持ち帰るようにしましょう。

\*左のカレンダーは現時点での予定です。変更があるかもしれません。

## 前回から、8組の皆さんからの“投稿”を紹介しています。

### 8組 田村 紀瑛

私の得意教科の1つは英語である。しかし、去年までは、私の最も苦手な教科の1つであった。私は、英語教育の基本が始まる中学1年の時から英語が苦手だった。私が通っていた中学校では、50点満点テストが主流であったが、基本的な問題しか出題されない中学1年生の定期テストで平均点が40点を超える中、30点を取ったことがある。その時に、自分の中に英語に対する苦手意識が芽生えた。それから苦手意識が無くなることのないまま高校に入学し、入学して最初の進研模試でも偏差値は50に満たなかった。しかし、苦手意識はあるものの、高校に入学してから英語の勉強を怠ることはせず、1年生の時は文法を徹底的に自分に叩き込んだ。それでも、勉強を始めてから1年間は全く成績が上がらなかった。しかし、2年生に上がって間もなく、偏差値が著しく伸びた。一気に10近く上がったと記憶している。私のクラスには「英語が苦手だ」「英語は勉強しても成績が伸びない」と言っている人が多い。しかし、結果が出るまで時間がかかったとしても、努力したことは裏切らない。私は最終的に、最初の模試から偏差値が20上がった。このことが何よりの証明であると思う。大切なのは、目標に向かって、ひたすら突き進んでいくことだ。



### 8組 野崎 桜花

先日、家に届いた村の広報誌に成人式の写真があった。その中には、私の知っている人もたくさんいて、去年までは感じたことがなかった不思議な感覚になった。二十歳というと、十代とはどこか切り離された遠い存在のようにも思えたが、自分も数年後にはそういう立場になると考えたら、案外変わらないのかもしれないと思った。それでも、社会では20歳を境目に大人とみなされ、それを自覚して生きていかなければならないというのは、酷なことのようにも思えた。「18歳成人」と、口で言うのは簡単だが、自分がその年齢に近づくほど、その制度には不安を感じざるを得ない。結局は、18歳選挙権も、18歳成人も、その主役になる若者の意識が変わらないことには意味がないと思う。16, 17の今だからこそ、大人になるということについて一度しっかり考えたい。

### 8組 木野内 博斗 「ラーメン」

いま、ぼくは「ラーメン」にハマっている。食べたことがない人はいないと思う。高カロリーであるのは分かっている。でも、また食べたくなってしまう。なぜ、こんなに惹かれてしまうのだろうか。誰か、ぼくの出費を止めてほしい。

いま、ぼくは郡山のラーメン屋を開拓している。店を訪ね、ラーメンをいただく度、おもしろさを感じる。当たり前のことであるが、店によってラーメンは違う。麺は、太麺か細麺か。硬さはどうか。ダシは鶏か、豚骨か、魚介か。職人は、自分が目指すラーメンをつくりだすため、食材を選び、長い時間をかけてダシをとる。そして、それらをさらに引き立たせる麺を沈ませ、トッピングでおしゃれをさせて、見事な一杯を生み出す。しかし、職人は最高を目指して試行錯誤し、さらなる進化を続ける。



ぼくは、これを食べずにはいられない。ぼくは、財布を片手にラーメン屋を訪ねる。